

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（いぶりとうぶ） 胆振東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	本事業は、北海道の南西部に位置する 1 市 2 町に所在する約 6 万 3 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区には北西に^{たるまえ}樽前山やオロフレ山、北東には^{ゆうぼり}夕張山地が連なり、中央部には^{ゆうふつ}勇払平野が広がっている。特に北側に位置する樽前山は、噴火にともなう火山災害の危険性が高く、一帯の森林整備は極めて重要である。南側は長く海岸線が太平洋に面しており、スケトウダラ刺網、サケ定置網、ホッキ貝漁業などの地域の水産業が盛んである。内陸に位置する国有林の総面積の約 92%が水源^{かん}涵養を主な目的とした保安林に指定されており、地域産業である農業や漁業の振興に資する観点から地域の資源保全に重要な役割を果たしている。 また、この地域は古くからアイヌの人々が多く暮らしており、貴重なアイヌ文化の振興に取り組んでいる。国有林においても、アイヌ文化に不可欠な林産物の供給に地域と一体となり取り組むために、^{しらおい}白老町と共用林野契約を締結するなど、文化的な機能にも着目する必要がある。 本計画区は、優れた自然景観を有することから、^{しこつとうや}支笏洞爺国立公園が風景林に指定されており、自然環境の維持が図られている。ポロト湖周辺は豊かな森林に覆われ、エゾシカ、キタキツネのほかエゾモモンガ、エゾリス等の野生動物やアカゲラ、オオルリ等約 80 種の野鳥が生息しており、ミズバショウやザゼンソウ等の湿性植物も見られることから、自然休養林に指定されているほか、近年の気候変動にともなう水土砂災害の軽減防止効果も期待されている。 森林の現況は、トドマツ（57%）を主な樹種とした人工林面積が約 2 万 2 千 ha、天然林面積が約 3 万 7 千 ha であり、森林蓄積は全道平均 147 m³/ha に対して 122 m³/ha となっている。 人工林の齢級構成は、約 70%が 7～12 齢級で、その中でも主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 73%を占めるなど森林資源の本格的な利用期を迎えており、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図る等、森林整備の必要性は一層増している。 このため、本事業は、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域の期待に応えるとともに、国産材の安定供給体制の構築や生物多様性の保全等の促		

	進及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進するとともに森林整備の効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。 ・ 主な事業内容 森林整備 更新面積 101 ha
--	--

	ているが、60 歳以上の割合は全体の 30%を超え、林業に従事する後継者の確保が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就業定着に大きく影響している。 また、北海道内では、木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開されている中、国有林においても、森林・林業・木材産業の発展や振興に寄与するため、自然条件や作業システム等に応じた路網整備を推進することが重要である。また、本計画区は樽前山の山麓周辺に位置し、都市近郊林であることから水源の涵養、国土の保全といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。 事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コンテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。 また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待に応え、また、北海道産材の需要に応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。 なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業体と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。 地元の意見： （北海道） 森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。 今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。 （苫小牧市） 国有林は苫小牧市の水源地の上流部にあり、台風による風倒被害地の復旧をはじめとした森林の整備・保全が実施されたことは、水源涵養機能や土砂流出防止機能など森林がもつ多面的機能の発揮と、良好な森林形成が図られるものと高く評価する。 また、樽前国有林において導流堤が施工されていることは樽前山の次期噴火に備えた防災および減災に寄与しているものと評価する。今後とも国有林の適切な森林整備の推進をお願いしたい。 （白老町） 白老町における国有林の森林は 67%を占め地域における水源林としての役割を担っており、間伐を主体とした森林整備が実施されたことにより、森林の有す

	る多面的機能が発揮される健全な森林の形成がなされたことは評価する。 また近年のアウトドアブームや、令和２年７月にオープンしたウポポイに国内・国外から多くの観光客が訪れていることから、ウポポイ周辺にあるポロト自然休養林を中心とした、森林空間を生かした総合的な森林整備にご協力願いたい。 (むかわ町) 行政面積の約８割を森林面積が占める当町において、国有林の占める割合は高く、この間、国有林において森林整備事業が着実に実施され、本町の森林の持つ多面的機能が発揮されたことは十分に評価できる。また、本町には複数の林業事業体や製材工場等があることから林業・木材産業が基幹産業の一つであり、国有林における森林整備事業の実施により、木材の安定供給及び雇用の維持に寄与されたと評価できる。 山間地域に集落が点在する本町にとって、国有林が持つ水源涵養や土砂流出といった公益的機能の維持増進は非常に重要であり、また本町の林業・木材産業の振興のため今後も引き続き森林環境保全整備事業が実施されることを期待する。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られており、事業の効果が発揮されていると認められる。
評価結果	・ 必要性： 本事業は、地域の林業や農業及び水産業の振興に資する観点から、水源林や火山地域における防災林としての働きといった森林の有する多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。また、むかわ町及び北海道と地域主体の一体的な森林づくり協定を締結し、所管を超えて流域が一体となった森林整備、森林資源の循環利用など及び木育を推進し、地域の振興や再生に貢献している観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などによりB／Cは低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、地域産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることから、事業の有効性が認められる。

※平成 27 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：北海道

施行箇所：胆振東部森林計画区(胆振東部森林管理署)

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	8,958,348	
	流域貯水便益	1,640,810	
	水質浄化便益	6,828,352	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,794,383	
環境保全便益	炭素固定便益	3,605,783	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	550,164	
	木材利用増進便益	314,826	
	木材生産確保・増進便益	814,863	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	57,826	
	森林整備促進便益	148,720	
総 便 益 (B)		32,714,075	
総 費 用 (C)		4,587,952	
費用便益比	$B \div C = \frac{32,714,075}{4,587,952} = 7.13$		

森林環境保全整備事業 胆振東部森林計画区 事業概要図（胆振東部森林管理署）



新設工事



下刈



保育間伐



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森 林 管 理 署	